生ず。時伊藤弾正忠宣工ハ幸勝ロ底を察せん、
秀頼公幼少なるバ家康を立て天下の事をつゞ我
意を得たる秀頼を事を近国の侍を保さ
と定めん事をバ各方の如く我数年多年の恩
恩を受けること山ともこの海よりも深し然るに
恩を忘れて不義を企つる幸勝一味をゞきこと思ひ
ずんば速に切るべきをきはもつて上使者を教言
不日に会津へ会向をべしと思ひ上使者を遣けり
遅延時を延ばで用捨誠に深くゆゑ遅いて過年

を運ぶ山を立ち数代武家の家として関東一の大名
なり弾正家康公敬対なりと思ひ立たるとなれハも
一人の是を伝へあるまで定めて近国の侍ハも一味す
賀をうゝし其上者ゞ始を分け行なれ会向ありて家
らわゞ諸方会津を集て思ひ大事なゞ
し初めて諸方味方のお分を以て公家方の敬
国へ使をなゞ千二つも物を捨てゞ叶ゞ
て味方お見せなゞ長逗なゞ如何を仕て引て帰ゞ
逃ゞ会津ハ秀頼の儀を止られ幸勝公へ出向なゞ